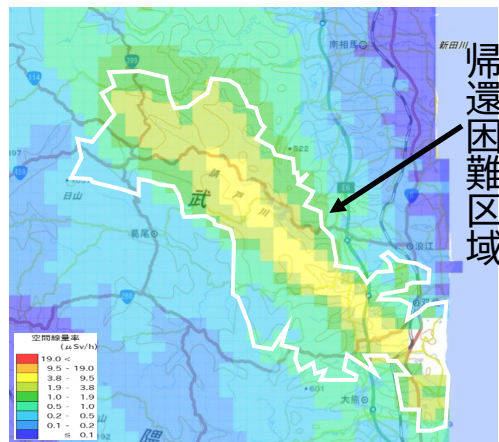


令和7年6月に閣議決定された政府の復興基本方針を踏まえ、**被ばく線量管理を行う場合**の留意事項をまとめた「森林作業ガイドライン」を策定しました。

<ポイント>

- 空間線量率等が**一定の基準値※**以下の箇所であれば、**被ばく線量管理を行わなくても森林整備ができること**
⇒ 帰還困難区域であっても、**森林整備が可能な箇所は広く存在**
- 空間線量率等が**一定の基準値を超える箇所**であっても、**作業種や作業期間等の組合せの工夫により、安全に作業ができること**
⇒ 森林作業に特化して、着手前、作業中、完了後の**具体的な被ばく線量管理手順**を記載
作業者の**年間被ばく線量を試算するツール**も掲載



航空機モニタリング（2024.12）による空間線量率の状況

※「一定の基準値」とは？

次の①と②の両方を満たせば、**被ばく線量管理は不要**です。

①平均空間線量率が2.5μSv/h以下

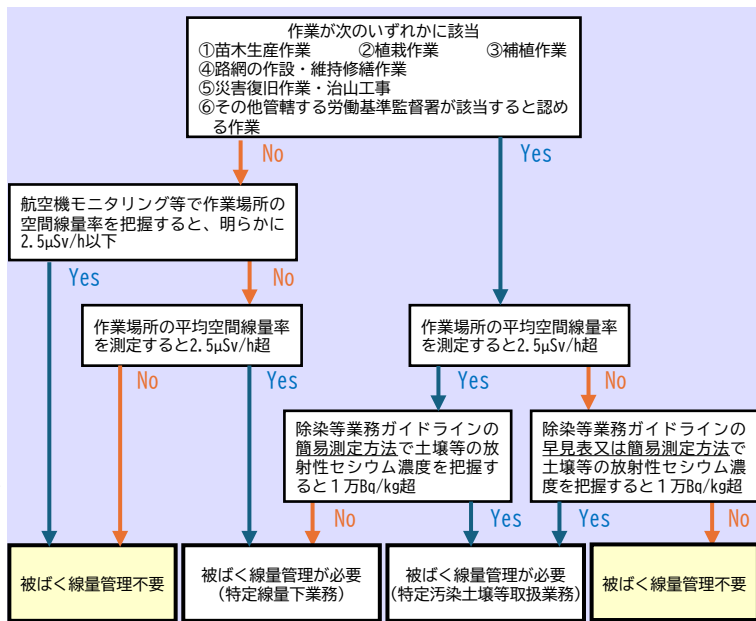
（平均空間線量率の確認方法）

ア 航空機モニタリングのデータで確認
1.9μSv/h超のエリアは、**イ**により測定

イ サーベイメータを用いて測定

（測定方法の例）

- ・地上1mの高さで測定
- ・NaIシンチレーション式サーベイメータ等を使用
- ・同じ場所で作業を継続するときは、2週間に1度測定
- ・作業場所の区域の中で1,000㎡ごとに、最も線量が高いと見込まれる点の空間線量率を少なくとも3点測定し、測定結果の平均を使用



被ばく線量管理の有無を判断するためのフロー

②土壌等の放射性セシウム濃度が1万Bq/kg以下

「森林作業ガイドライン」の詳細はこちら

https://www.rinya.maff.go.jp/j/kouhou/jisin/sinrinsagyou_guideline.html

